



臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano” とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

Doctor of Physical Therapy (DPT) への 志を忘れずに

【当法人評議員】

東京医科大学八王子医療センター

天川 淑宏 [理学療法士]

一生涯の仕事を持ち続けることができるのであれば人生は最高のだろうと思う。そこにはライフワークとして人生を捧げたテーマがある。

米国では1992年より理学療法士の知識とスキルレベルを考慮し、医療環境のニーズを満たす臨床スキルを持つ Doctor of Physical Therapy (DPT) への道筋が確立されていることを2000年に私は知った。そのきっかけとなったのは、理学療法士を取得する15年程前にさかのぼる。

日本では昭和63年に厚生省が認定する健康運動指導士が発足。それまで運動は体育やスポーツが中心であったが、健康づくりや疾病対策に対する運動の位置づけがはじめて示された。私は同年に資格を取得し、市町村の保健センターや民間フィットネス施設でトレーナーとして携わる。平成8年4月、厚生省から運動療法指導管理料(高血圧症900点)が新設され告示の前に健康運動指導士が召集された。医療での活躍に期待するとともに今後国家資格となることも見据え厚生大臣認定健康運動指導士と名刺などに記載することが伝えられた。その後、内科クリニックで運動指導に携わることとなり、平成12年4月からは、糖尿病(1200点)、高脂血症(1050点)にも適応が拡大された。算定には、運動療法に経験のある医師が実施する事および運動指導箋を交付する事が条件とされた。しかし、現実には、本指導管理料を算定している医療機関は少数であり、患者一部負担金が高額すぎて算定しづらいという側面があることなどから数年後に運動療法単体での指導管理料は見直され生活習慣病管理料へと移行した。その後もクリニックで糖尿病外来指導は継続していた。2000年には日本糖尿病療養指導士認定機構が発足し、糖尿病療養に関わる各職種の認定が開始された。運動療法も糖尿病治療の1つであり専門職種の認定も加わった。その対象は医療職であるという条件から理学療法士のみとなり、健康運動指導士は除外であった。当時、糖尿病の運動を学ぶ会を発足し勉強会などを行っていたが、理学療法士が糖尿病に関わることはなく参加者はいなかった。運動に携わる資格とは何か、糖尿病療養指導士として認定の対象にならないことに納得いかない思いであったことを今でも覚えている。健康運動指導士は、平成18年に厚生大臣が認定した事業の省令は廃止され財団法人健康・体力づくり事業団独自の事業として継続されている。

糖尿病患者への運動指導に携わる日々、その一方で一生涯やり通すことが出来る仕事なのか、医療における運動療法への不確かな位置づけ、そして何ら保証もないこと、その不安に苛まれていた。

そんなときに知ったのがDPTであった。それまで理学療法士は3次予防に特化したリハビリを行なう専門家であり、2次予防に携わってきた私には興味がなかった。しかし、DPTは米国でのことであるが理学療法の専門知識と技術を身に付けることは、運動を生業とするために欠かせない条件であろうと確信した。この思いは4年間夜学に通い専門を学ぶことの選択となった。2002年からは東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科に所属し、理学療法士として糖尿病療養指導士として、糖尿病の2次予防への療養指導に携わっている。現在も運動療法は診療報酬の対象でもなく、ましてやDPTなど我が国では夢のようなものではあるが、私なりの運動療法への拘りに勇往邁進する。一生涯の仕事として。



読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 低血糖時における中枢神経系の症状を次のうちから、2つ選べ。(答えは7ページにあります。)

1. 震え
2. 冷汗
3. 集中力の低下
4. 動悸
5. 目のかすみ



報告

平成29年度 西東京糖尿病療養指導プログラム

日時:平成29年7月9日(日)

場所:駒沢女子大学

第14回 西東京糖尿病教育看護研修会

[本法人会員] 第14回西東京糖尿病教育看護研修会総合司会

川越内科クリニック 下地 亜希子 [看護師]

2017年7月9日、豊かな緑に囲まれた駒沢女子大学にて「第14回西東京糖尿病教育看護研修会」が開催され、292名の方が参加されました。

今年度のメインテーマは“エンパワメントアプローチ”です。午前の部では、金沢大学大学院医学系研究科教授の稲垣美智子先生・公益社団法人日本看護協会会長の福井トシ子先生にご講演を賜りました。稲垣先生からは、“糖尿病患者と家族”を対象にお話しいただいたのですが、身近で療養を支えるご家族・患者さんご自身・そして医療者それぞれのパートナーシップについて考えました。稲垣先生が実践していらっしゃる“家族同席面接”のお話は、まさに日常へのエンパワメントだなあとしみじみ感じました。

福井先生からは“チーム力を発揮する糖尿病看護”についてお話しいただきました。力強く軽妙で深い“信念対立”のお話が印象に残っています。職種間の関心の違いをお互いに認め、感情をスキルに変えましょう！職種や個人のパワーバ

ランスではなく、患者ファースト

ですよ！と・・・当然のことなのに時として難しく感じた経験が、皆様にもあるのではないのでしょうか。

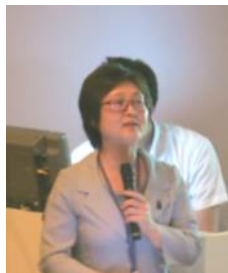
午後からは“地域で患者を支えるエンパワメントアプローチ”と“地域包括支援システムを学ぼう”をテーマに医師や病院看護師・訪問看護師から症例提示をしていただきました。夏らしい日差しの中、奮励努力される演者のみなさまから、たくさんの学びをいただいた研修会でした。



福井先生



近藤先生



豊島先生



家崎先生



- 😊 地域での支援状況や加算の事など学べてよかった。「看護とは」を改めて考えました。
- 😊 参考になることばかりで助かります。新たな気持ちで明日から勉強します。
- 😊 地域で患者を支えるためのエンパワメントについて各職種の方から話を聞くことができ、勉強になりました。

司会の方が言っていたように、明日から使いたくなるような話が聞けて良かったです。看護

- 😊 師の持つパワーのすごさ、看護師が患者を救わなければ誰が救うのだ!!という強い気持ちに感動してしまいました。また講演を聴いてみたいです。
- 😊 エンパワメント、チームケア、どうしていけばいいか、とても勉強になりました。まわりの職場スタッフとも意見を交わしながらチームケアを、さらに患者さんのために進めていけたらと思います。
- 😊 退院連携の支援や制度に関する知識が深められたので、病棟での患者さんへの知識提供につなげていきたいです。
- 😊 在宅を見据えた看護が必要であると改めて感じました。多忙な業務でなかなか話を詰めていけないですが、心がけていきたいです。
- 😊 モバイルdeアンサーは初めての経験なのでとても興味深かったです。

報告

平成29年度 西東京糖尿病療養指導プログラム

日時:平成29年7月9日(日)

場所:駒沢女子大学

第14回 西東京病態栄養研修会

[本法人会員] 第14回西東京病態栄養研修会総合司会

緑風荘病院 藤原 恵子 [管理栄養士]

高齢化が進み、高齢の糖尿病患者に接する機会は今後も増加すると考えられますが、各地域では地域包括ケアシステムの構築が始まっています。そこで今回は、高齢の糖尿病患者の特徴や在宅での連携を学ぶ内容としました。

高齢者に詳しい先生方にご講演を賜りました。初めに多摩北部医療センター内分泌・代謝内科の藤田寛子先生より「高齢者糖尿病患者の特徴」、次に駒沢女子大学人間健康学部健康栄養学科の田中弥生先生より「在宅医療を支える管理栄養士・栄養士の連携」、最後にこだま歯科医院院長の小玉剛先生より「オーラルフレイルと糖尿病(栄養士との連携について)」というテーマで講義をしていただき、認知症やフレイル、オーラルフレイルなどを考慮し個別対応の重要性や、在宅での連携について理解が深まりました。

後半は駒沢女子大学人間健康学部健康栄養学科の西村一弘先生より「地域包括ケアにおける栄養士の役割」として栄養士会からの情報や事例紹介、東京都介護支援専門員研究協議会の千葉明子先生と大和調剤センターくみたちウラン薬局の森貴幸先生からは他職種からの情報提供がありました。藤田先生、田中先生、小玉先生もご登壇され「糖尿病地域在宅における多職種連携」について、西村先生と東京医科大学第三内科名誉教授の植木彬夫先生の司会によりパネルディスカッションを行い、活発な討議がなされました。参加者より、今後の方向性が見えた、在宅に出る準備を始めたいなどの声も

植木先生

聞かれ、今後に繋がる実りある1日でした。



西村先生

千葉先生

森先生

小玉先生

田中先生

藤田先生



😊 新しい情報、これからのニーズについて伺えて勉強・刺激になりました。またぜひ参加したいです。

😊 講義内容がとてもよく、ライフステージ全てにかかわり介入する栄養士として頑張りたいです。

😊 これから在宅にどんどん出ていく必要があることがよくわかりました。

😊 地域、在宅をみていく大切さがよくわかりました。常に新しい情報をつかんでいくように、スキルを上げていきたいと思います。

😊 臨床糖尿病支援ネットワークのセミナーはいつもタイムリーな情報を提供してくださるので助かります。今やっている病院の栄養指導に活かしていきたいと思います。

😊 とても内容が濃く勉強になりました。栄養士(管理)にとってチャンスが多くなってくると思いました。今後もっとスキルをみがき、貢献していきたいです。

😊 勉強会は全体を通して、とても学びになることが多く、明日からの業務に活かせると思いました。

😊 栄養士の仕事がとても重要なことが身に染みる講義ばかりでした。今後も参加しスキルアップし患者さんに接していきます。

報告

平成29年度 西東京糖尿病療養指導プログラム

日時:平成29年7月9日(日)

場所:駒沢女子大学

第14回 西東京薬剤研修会

[本法人会員] 第14回西東京薬剤研修会実行委員

多摩丘陵病院 栗栖 啓充 [薬剤師]

第14回西東京薬剤研修会がポリファーマシーと妊娠をテーマとして開催されました。午前の部1では下北沢病院薬剤部堀井剛史先生に糖尿病とポリファーマシーをテーマとして講演して頂きました。患者が抱く糖尿病治療に関する不満点とポリファーマシーの問題点の間に共通点があり、ポリファーマシーの解消は糖尿病患者の満足度にもつながることをご指摘頂きました。午前の部2と午後の部では妊娠と糖尿病をテーマとして杏林大学医学部付属病院薬剤部小林庸子先生、杏林大学医学部付属病院産婦人科准教授古川誠志先生、公益社団法人日本看護協会会長福井トシ子先生に講演して頂きました。小林先生には医薬品の妊婦、授乳婦に対する禁忌の意味について教えて頂きました。古川先生には、母体の高血糖の影響が妊娠の器官形成期や組織発生期、機能的成熟期いずれの時期においても胎児にもたらされるため、母体の血糖管理が周産期死亡率を下げるために大変重要であることを教えて頂きました。福井先生には妊娠糖尿病を指摘された女性が大きな不安やストレスを抱えており、適切なタイミングでの支援が重要でその方法を具体的に教えて頂きました。



堀井先生



DM患者に、薬剤師としての指導(ポリファーマシーについて)を行う意義が分かりました。



臨床医、助産婦さんの視点の話はとても参考になりました。とても有意義な講習会でした。

午後の部2の後半では本日の講師の先生にご登壇頂きパネルディスカッションを行いました。フロアからのモバイルdeアンサーにより大変多くの質問を受け、各先生方に説明頂きました。質問の多さから今回のテーマが大変重要で関心の高いテーマであったと感じられました。

第2回 西東京臨床検査研修会

[本法人評議員] 第2回西東京臨床検査研修会総合司会

公立昭和病院 櫻井 勉 [臨床検査技師]



宮川先生



津田先生

2回目の臨床検査1群研修会が7月9日(日)に駒沢女子大学で開催されました。今年の臨床検査研修会は「腎臓」にスポットを当てた企画としました。受付での混乱もなく参加者をスムーズに導けたにもかかわらず、講師の来場が開始間際となり、参加者をひやひやさせてしまい申し訳ありませんでした。

講演は、公立昭和病院腎臓内科の宮川 博先生に「腎臓と糖尿病」として腎臓の機能・生理から各種病態まで幅広く話して頂き、基礎を学んだ後に腎臓の最終的治療である「透析」について八王子医療センター中央検査室の津田 卓也先生に原理、種類、方法などを話して頂きました。引き続き公立昭和病院薬剤部の西條 雅美先生

に腎機能低下時の薬の使い方や注意点を、八王子医療センター栄養管理科管理栄養士の和田 茜先生に腎機能の状態変化に伴う食事のあり方、腎不全患者に対する栄養指導内容などを講演して頂きました。また、武蔵野赤十字病院心療内科心理判定員の菊池 陽子先生に「患者心理」について話して頂き、腎合併症を有する患者さんへの療養指導方法を多方面から学ばせて頂きました。最後に腎症に関連する一般的検査項目から最新の検査項目までを八王子医療センター中央検査室の浅海 隆司先生に話して頂きました。



L-FABPについてなどとてもわかりやすくおもしろかったです。見方がわかると日々のデータの見え方もわかり、また患者様と向き合っていこうと思います。



新しい情報が聞けてとても充実した講習となりました。

臨床検査研修会は基礎的部分の講演が多くなりましたが、患者さんの病態把握に大変役に立つと共に療養指導していく上で必要な知識の再確認が出来たと思われました。

報告

平成29年度 西東京糖尿病療養指導プログラム

日時:平成29年7月9日(日)
場所:駒沢女子大学

第2回 西東京運動療法研修会

[本法人会員] 第2回西東京運動療法研修会総合同会
広瀬病院 永田 昌宏 [理学療法士]

第2回西東京運動療法研修会は、前回に続き100名程の方が参加されました。午前の部は4演題、午後の部は4演題とパネルディスカッションが行われました。

午前の部は、植木彬夫先生に「糖尿病治療における運動療法の意義」として、運動療法の指導を実践する上での課題と運動専門職に期待することを示して頂きました。

石黒友康先生に「糖尿病運動療法の変遷と療養指導」として、1960年代からの様々な研究結果を踏まえた運動療法の歴史と捉え方を示して頂きました。炭谷由計先生に「薬物療法、食事療法とのInteraction」として、運動療法が薬物療法や食事療法にもたらす相乗的な効果を示して頂きました。天川淑宏先生に「身体活動と運動のUp-to-date」として、昨年アメリカ糖尿病学会から発表された運動療法のステートメントを解説して頂きました。

午後の部は、糖尿病合併症をテーマに、岩崎孝俊先生に「糖尿病と循環器疾患」、佐久間貞典先生に「糖尿病と腎不全～診診連携～」、増田浩了先生に「糖尿病と運動器疾患」、小池日登美先生に「糖尿病と認知症」として、豊富な実践経験に基づいた運動療法の指導の着眼点を示して頂きました。最後に午後の部の講師と参加者のディスカッションが行われました。



運動療法に対するそれぞれの植生(医師、PT、健運士)の視点からの講義が聞くことができ、偏りなく学べ、とても有意義でした。



糖尿病と腎不全の講座はとても興味深い内容でした。腎症の勉強をもう一度見直していきたいと感じました。

各講義で示された幅広い内容から、様々な職場で日々の療養指導に悩む私たちに多くの重要な示唆が与えられました。運動療法の指導に求められることは何か、研修の内容をもう一度振り返って整理する必要性を感じています。

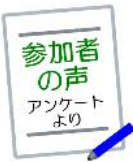
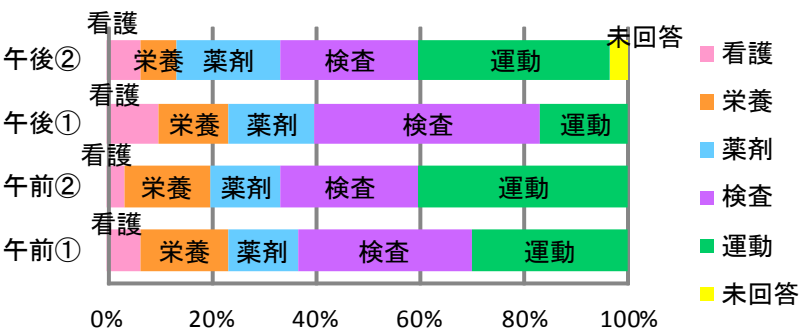
フリーコース(5分科会自由受講)

今年度は47名の方がフリーコースに参加されました。

<参加者職種内訳>

職種	人数
医師	1
保健師	1
(准・正)看護師	14
(管理)栄養士	22
薬剤師	6
臨床検査技師	2
臨床工学技士	1
計	47

<参加した研修会>



現在DMに関わるのが少ない業務をしているので、今回フリーコースで申し込みました。看護師ですが、看護以外の視点での内容で新鮮で有意義でした。



フリーコースだと、気軽に移動できることがメリットです。ちょっと違うかな、と思った時に他科へ移れるのはとても良いです。来年も是非、フリーコースで参加したいです。

報告**西東京CSII普及啓発プロジェクト第11回研修会**

日時:平成29年6月20日(火)

場所:立川相互病院横 薬局棟 講堂

[本法人会員] 立川相互病院 宮城 調司 [医師]

第11回研修会は、2017年6月20日立川相互病院講堂にて行われました。先の5月に行われた第60回日本糖尿病学会学術集会でも話題であった、Free Style Libreに関する内容であり、関心の高さから参加人数82人と大変盛況でした。

第1部では、アボットジャパン株式会社より製品に関する解説がありました。血糖低めの際の、実測値との乖離など、まだ改善点があると考えられました。但し、患者自身が血糖の流れが、その場で見られるようになったという画期的な点は、その欠点を大きく上回る利点です。

第2部では、大和調剤センター森貴幸先生より、実際にLibreを装着しての個人的な感想や問題点など話して頂きました。従来のCGMとの比較からでは、上昇下降の流れについては、ほぼ同じとなっていました。血糖自己測定による補正が不要という点は最大の利点と思われます。

第3部では、東京医科大学名誉教授植木彬夫先生より、Libre使用上の注意点とその応用、と題して発表頂きました。1型糖尿病使用例では、HbA1cの変化は殆どないが、低血糖・高血糖とも回数が減り、身体が楽になった、という訴えがありました。血糖の流れの視覚化により、患者様自身が様々な工夫をやったり、食事・運動に対する取り組みが変化する可能性が示唆されました。また、時間をかけて食物摂取した場合、脂質・蛋白質から先に摂取した場合、など血糖の流れが視覚化されることにより分かってきた事実が示されました。それにより、医療者側にも食事・運動療法の考え方の変化をもたらす可能性があります。

最後に、意見交換では様々な質問が出され、Libreに対する今後の期待と関心の高さが窺い知れました。早急な保険収載が待たれます。

報告**西東京CDEの会 第16回例会**

日時:平成29年6月24日(土)

場所:府中ひばりホール

[本法人評議員] 総合司会 大和調剤センター 森 貴幸 [薬剤師]

西東京CDEの会第16回例会では「CDEがこれからの介護-在宅医療-を学ぶ」をテーマに開催したので報告をする。参加者82名であった。

基調講演は石橋クリニック院長石橋幸滋先生に「糖尿病をもつ人の在宅医療・介護においてCDEができること」としてご講演を頂いた。死因は肺炎で亡くなる人が多いが生活習慣病が元で肺炎になる方が多い。CDEはこれから介護の中でも果たす役割は重要であるとわかった。

第2部カテゴリー発表では「在宅医療・介護現場における私の役割」としてたんぽぽクリニック医師鈴木比有万先生から、糖尿病のある在宅患者では多職種連携と情報共有が重要である、顔の見える関係を作るために担当者会議、退院時カンファ、見える事例検討会を開催して連携が取りやすくなった、とお話し頂いた。東村山市南部地域包括支援センターケアマネジャー細江学先生からは、ケアマネジャーに対するアンケートの発表で、在宅で困っていることは食事と次に服薬・インスリンの管理であった、とお話し頂いた。青葉区医師会訪問看護ステーション看護師半田桂子先生からは、訪問看護師不在の時に安全に過ごす為の支援をすることが重要である、医療介護専用SNSを用いることで情報の共有化が図れる、とお話し頂いた。さやま総合クリニックいきいき訪問看護ステーション鶴ノ木理学療法士木村壮介先生からは、他職種との連携、特にケアマネジャーと連携をとることが多い、介護の方へ積極的に話しかけることで垣根を低くすることが出来る、とお話し頂いた。

第3部はモバイルdeアンサーを用いたディスカッションを行った。本日来ている方は多くが在宅をやっているという結果であった。ケアマネジャーはカンファレンスや担当者会議でコミュニケーション能力が重要である。住環境の整備も重要である。飲みやけションなど顔の見える関係を作り上げることも重要だと思われる。いろいろな意見があげられ会場と一体になれたのではないと思う。

これから介護を必要とする人がますます増えていく世の中でCDEも広く周りを見渡し、医療と介護をつなぐ架け橋になる必要性を感じた例会であった。



鈴木先生



第5回日本糖尿病療養指導学術集会

平成29年7月29日(土)～30日(日)

国立京都国際会館

[本法人評議員]

大和調剤センター

森 貴幸 [薬剤師]

【29日】

日本糖尿病協会受賞講演は南條輝志男先生、野見山崇先生だった。糖尿病連携手帳を交換日記みたいに活用している。歯科の項目、大血管障害、癌、血管合併症予防などの新たな項目を追加して患者に係わる医療者の連携と患者が自分の状況をみることの出来る連携手帳となっている。医療スタッフよりも患者はより知識を持っていることが考えられる。野見山先生の言葉で「配膳より下膳の方が情報がある」どの位何を残しているのかが重要な情報であると考えさせられた。

森自身はスモールグループディスカッション(以下;SGD)ライフステージに応じた療養指導・1型糖尿病にファシリテーターとして参加してきた。1型糖尿病の医療費についてワールドカフェで最後にまとめとしてマンダラート法を用いて問題点を抽出しその問題点を解決する方法を考えることをした。昨年までのワールドカフェでは問題点の抽出まではできるが解決方法まではあまり結論に結びつかないところではあった。やり方が浸透するともう少し結果が変わってくると感じた。1型糖尿病の医療費、特に若い世代での支払いは大変になっている。病院やクリニックでも対応が違う可能性がある。安くすることは難しいが受診するタイミングや検査など医師に相談すると良いと考えた。

会長講演は佐賀大学の安西慶三先生から佐賀県の療養指導士の活動報告を受けた。西東京療養指導士と比べても先進的に取り組んでいることがあり今後西東京CDEの会でも新たな試みに取り組んでいく必要性を感じた。

【30日】

SGDインスリンポンプ療法にファシリテーターとして参加してきた。インスリンポンプはメドトロニック株式会社の620Gを実際に触りながら体験していただいた。症例を元にSGDを行った。ポンプ導入にてその後の問題点を洗い出し解決方法を指導経験者・未経験者で考えた。

2日間を通して糖尿病療養指導士の活躍の場を皆が求めていると感じた。これから療養指導の場は与えられるものでは作っていくものだと感じた。西東京でも全国に発信することが重要だと思う。療養指導士同士の縦横の繋がりでなく所属や職種を問わず連携することが重要であると思った。



一緒に参加された小林先生



答え 3, 5

下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

低血糖昏睡の発症は急激ですので、早期発見・早期治療が必要となります。症状の発現には個人差が大きいです。初期症状としては、冷汗、不安感、手指振戦、顔面蒼白、動悸などの交感神経症状がみられます。やがて中枢神経のブドウ糖欠乏による症状として、頭痛、眼のかすみ、動作緩慢、ねむけ、空腹感、集中力低下などを訴え、次いで、意識障害、異常行動、痙攣がみられ、さらに昏睡に至ります。一般に血糖値が50mg/dL以下の中等度の低血糖になると、中枢神経のブドウ糖不足の症状が出現し、30mg/dL以下になると、痙攣発作、低血糖昏睡に至ります。

解答は、1. 2. 4. は交感神経系の症状、3. 5. が中枢神経系の症状となります。

事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受付けております。ご返信にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00~12:00/13:00~16:00にお電話くださいようお願いいたします。

お悩み解決

《会員マイページ Q&A》

Q. 会員マイページってホームページのどこから入るのですか？

A. <パソコンの場合> まず、画面右上にあるログインボックスに会員IDとパスワードを入力します。入力後、ログインボタンをクリックするとログインボックスが「〇〇様 ログイン中です」という表示に変わります。その下にある「会員マイページトップ」という表示をクリックすると会員マイページに入れます。



<スマートフォンの場合> まず、当法人ロゴマークの右下にある「会員マイページ」をタップします。開いたページにあるログインボックスに会員IDとパスワードを入力します。入力後、ログインボタンをタップすると会員マイページに入れます。

研究会等のセミナー・イベント情報

◆ 主催事業 ◆ 共催・後援事業 □ その他

◆ 第21回 西東京糖尿病心理と医療研究会

申込必要

開催日：平成29年10月21日（土）15:30~18:50
 場所：国立市商業協同組合 さくらホール（JR中央線「国立駅」下車 徒歩3分）
 参加費：500円 申込：FAX: 042-400-5952（10/16締切）
 問合せ：ノボ ノルディスク ファーマ(株)（担当：梶原） TEL: 042-400-5951

詳細資料の
同封あり

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：5単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位申請中

◆ 第10回 ブルーライトアップ - スカイトワー西東京 -

申込必要

開催日：平成29年11月11日（土）15:45~18:00（開場：15:15）
 場所：スカイトワー西東京 タワープラザ地下1階会議室 ※雨天決行
 （西武線「花小金井駅」北口下車 徒歩20分 または西武線「田無駅」北口よりバス有）
 申込：FAX: 042-322-7478
 問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL: 042-322-7468

参加費
無料

詳細資料の
同封あり

14:45~ 西東京糖尿病療養指導士による
「糖尿病クイズラリー」にも参加可能です。

◆ 臨床糖尿病支援ネットワーク 第62回例会

申込不要

テーマ：『その血糖値どこまで信用できる！？～血糖測定の現状と問題点～』

開催日：平成29年11月18日（土）15:30~18:50
 場所：国分寺市立いずみホール（JR「西国分寺駅」下車 徒歩2分）
 参加費：本法人会員 無料 / 一般 1,500円

参加費
無料

詳細資料の
同封あり

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位申請中

☆日糖協療養指導医取得のための講習会：申請中

◆ 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第12回研修会

申込必要

演題：『CSII・SAP導入経験を語る』

開催日：平成29年11月28日（火）19:20~21:00
 場所：立川相互病院横 薬局棟2階・講堂（JR中央線「立川駅」北口下車 徒歩8分）
 申込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（11/21締切）
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位申請中

参加費
無料

詳細資料の
同封あり

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
 〒185-0012
 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
 TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
<https://www.cad-net.jp/>
 Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



今年の夏はどこに行ってしまったのだろうか。東京では8月になって連続21日の雨。いつもの過酷な暑さにも困ったものですが、ちょっと寂しい気もします。締切りをのばしていただき編集後記を書いている私は、明日から夏休み。夏を求めに宮古島に行く予定でしたが、台風のため飛行機は欠航とのこと。がーん。さてどうしたものか。

（広報委員 矢島 賢）